

本校の教育の柱とカリキュラムの特徴は以下の通りです。詳しくは、「概要の紹介」の各項目を合わせてご参照下さい。

1. 初等部教育の柱

① 本物から学ぶ教育

本校の教育は、本物に触れることを大切にしています。本物に触れる感動は、子どもたちの学習意欲を刺激し、感じ・考え・行動する力を育みます。

1) 宿泊行事(→6. 宿泊行事)

本校では、6年間で50日近くの宿泊行事を経験します。多くの行事を行うことは、参加する子どもたちも、実施する教職員も、お子さんを送り出す保護者の方々も、多くのエネルギーが必要です。それでも、「生活力や社会性を育てる」生活面での価値と、「学習の『活用・発展』、『思考力・判断力』を伸ばす」学習面の価値があるから続けています。

決して、豪華で快適な旅行ではありません。親元を離れ、集団の中で、自分の力で生活していく力をつけることを目的としています。

2) 芸術鑑賞・美術鑑賞・落語教室

本校では、録画や写真ではなく、劇場や美術館に行って本物に触れることも、大切にしています。

芸術鑑賞は、能・舞台・音楽の3種類を交互に鑑賞して、子どもたちが様々な「本物」に触れる機会を作っています。

美術鑑賞は、各学年の図工担当者が行き先や内容を吟味して、その年の子どもたちに合った展示を鑑賞します。

落語教室は、上野の鈴木演芸場のご協力で、噺家の方においでいただき、落語を聞きます。その瞬間は、礼拝堂が「初等部寄席」に一変します。

3) 教材・道具

図工で使う絵の具は、美しい本物の色を感じるため、工場で大量生産される絵の具ではなく、職人が自然の素材から一つ一つ手作りする絵の具を、1年生から使っています。

習字は、書家の先生が、筆の穂先の使い方から丁寧に指導します。使う道具も、明治時代から続く老舗の書道用品店が初等部生のために特別に作ってくださった筆を使います。墨汁ではなく、墨をすって使うのも、本物に触れる機会です。

② 神・人・自然と関わる教育

1) 宗教教育

礼拝堂で守る毎朝の礼拝に加えて、キリスト教の暦に合わせた特別礼拝を行っています。

初めて手にする聖書は、新約聖書です。1年生のなかよしキャンプで宗教主任が渡します。音楽の授業でも讃美歌を歌います。また、保護者に対する宗教教育や聖書・讃美歌・ハンドベルの会を開催して、保護者の皆様にキリスト教に触れていただき、理解を深めていただく機会を作っています。

2) パートナー制度 (→1. 初等部教育の特色 ⑦パートナー制度)

本校では、1年生と6年生・1年生と2年生がパートナーとして生活しています。1年生は、パートナーのお兄さんお姉さんから初等部生活のいろはを教わり、安心して生活できるようになります。

3) 縦割りの生活

クラブ活動・プロジェクト活動・運動会・食堂給食・雪の学校等、生活の様々な場面で上級生と下級生が共に過ごす縦割りの生活を大切にしています。これにより、上級生はリーダーシップやフォロワーシップを身につけます。また、下級生は上級生の姿を見て、初等部生としての在り方を学びます。縦割りの生活を通して、初等部教育のバトンが受け継がれていくのです。

③ 家庭と学校が両輪となって進める教育

1) 日記 (→1. 初等部教育の特色 ⑧日記を通した心の交流)

日記は、1年生から6年生まで毎日書きます。一日を振り返って心に残ったこと、発見して考えたこと、ニュースを知って考えたこと、時にはうまくいかないことがあって悩んでいることまで、子どもたちは素直に綴っています。子どもの日記に保護者の方にコメントを書いていただき、次の日担任が返事を書いて返します。児童・家庭・学校の交換日記のような存在です。

2) 「成長の記録」と三者面談 (→1. 初等部教育の特色 ⑨日常評価)

本校では、通知表に代わる評価の在り方を工夫して、「成長の記録」という形で評価を残しています。点数による評価ではなく、各学期の取り組みを振り返り、文で表現します。これをもとに、毎学期末に児童・保護者・担任の三者で面談を行い、児童が今できていること・努力の必要なこと・次の課題を確認します。

大きな結果を求めるだけでなく、毎日のスモールステップを大切にして、積み重ねることで大きな力を得ることができる、まさに「継続は力」を日々指導してい

ます。

2. カリキュラムの特徴

①プロジェクト活動（→5. 特別活動と課外活動）

5・6年生が一緒に行う、学校のために仕事をする授業です。児童が、自分の力を生かしたいものを選んで活動します。週1回の授業時間以外にも、休み時間にシフトを組んで仕事をしたり、講師の話の聞いたり、下級生の意見を聞いたり、工夫して「自分の時間を人（学校）のために使う」ことを考えて活動しています。

②年間を通して行われる水泳の授業

床が可動式の温水プールで週1回、1年生から水泳の授業を行っています。顔を水につけることから始まり、水に親しみ、泳法を学び、泳力をつけるカリキュラムを組んでいます。その集大成ともいえるものが、5年生の海の生活です。プールと海では泳ぐ感覚が違うので、プールでは泳ぐことを得意としている者も、挑戦者の気持ちで臨みます。

6年生では、洋上小学校前に着衣泳を行い、プールで泳ぐこととは違う、水中での動き方を学びます。

③英語教育（→1. 初等部教育の特色 ⑥英語教育）

英語の授業は、1年生から毎週行われています。ネイティブの先生が担当し、歌や詩を通して、楽しんで英語に触れ、耳を慣らすことから始めています。

学院の英語科の教員が協力して編集した「SEED BOOK」を教科書として使って学習しています。世界に目を向ける学習にも力を入れ、WWFやWFPの特別授業やグローバルプログラムを企画して行っているのも、本校英語教育の特徴です。

高学年になると、大学の留学生と交流しながら英語を学ぶ「チャットルーム」に参加することができます。

3. ICT教育（→1. 初等部教育の特色 ⑤ICT教育）

新型コロナウイルスによる休校期間が大きなきっかけとなって、本校のICT教育も大きく変わりました。コンピュータの授業だけではなく、子どもたちが日常的にタブレットPCを文房具の一つとして使うことができるように、教員は必要に応じたICTの使い方を模索しながら授業を進めています。